

佐久島で初めて観察されたトノサマガエル

西川あい^{1,3)}・深田 翔^{2,3)}・島田知彦³⁾

First record of *Pelophylax nigromaculatus* on Saku Island, Aichi Prefecture, central Japan

Ai Nishikawa^{1,3)}, Kakeru Fukada^{2,3)} and Tomohiko Shimada³⁾

はじめに

愛知県知多半島と渥美半島に囲まれた三河湾には、およそ15の島々が点在しており（佐久島会，2008），そのうち有人島である佐久島，日間賀島，篠島は愛知三島と称されている（『愛知県史民俗調査報告書2』編集委員会，1999）．佐久島は面積が1.73 km²と湾内最大であるものの人口は愛知三島では最少で過疎化が進んでいる（佐久島会，2008）．島の標高は40 m以下で丘陵地となっており，沿岸の低地を中心に宅地と畑地が点在している．

この佐久島においてこれまでに生息が報告されていた両生類は，ヒガシニホンアマガエル *Dryophytes leopardus* Shimada et Matsui, 2025，シュレーゲルアオガエル *Zhangixalus schlegelii* (Günther, 1858)，ニホンアカガエル *Rana japonica* Boulenger, 1879 の3種であったが（島田，2025），筆者らは新たにトノサマガエル *Pelophylax nigromaculatus* (Hallowell, 1861) を確認したため，ここに報告する．

観察記録1

観察日時：2024年5月14日（水）午後11時頃 小雨

観察者：深田 翔

観察地点：愛知県西尾市一色町佐久島 北西部のため池

観察状況

周縁部をヨシ帯に覆われた長径（東西）50 m ほどのため池（第1図）から，トノサマガエルの広告音が確認された．池は海岸線から30 m ほどの位置にあり，海拔はほぼ0 m であった．広告音を発していた個体の数は正確にはわからないが，少なくとも1個体ではなく，おそらく2～3個体と思われる．同時にヒガシニホンアマガエルの音声も確認された．池の近くで探索を行い，ヒガシニホンアマガエルについては成体を確保したが，トノサマガエルは目視できなかった．

観察記録2

観察日時：2024年7月19日（金）午前1時20分頃

晴れ

観察者：深田 翔，西川あい

観察地点：愛知県西尾市一色町佐久島 北西部
池が隣接する舗装された路上

計測値：頭胴長97 mm

性別：メス

観察状況

発見した道路は，島内西部の集落から500 m ほど北に位置し，海岸（白浜）から森林部へ続く道中であった．道路の西側は海岸林，東側には観察記録1を得たため池があり，池周縁の樹木やヨシ帯からはヒガシニホン

1) 千葉県立中央博物館. Natural History Museum and Institute, Chiba, 955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan.

2) 岡山理科大学大学院理工学研究科自然科学専攻. Department of Natural Sciences, Graduate School of Science and Engineering, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama 700-0005, Japan.

3) 愛知教育大学教育学部理科教育講座. Aichi University of Education, Faculty of Education, 1 Hirosawa, Igaya, Kariya, Aichi 448-8542, Japan.

Corresponding author: Ai Nishikawa. E-mail: kaerugatondeiru@yahoo.co.jp

原稿受付 2025年11月18日. Manuscript received Nov. 18, 2025.

原稿受理 2025年12月13日. Manuscript accepted Dec. 13, 2025.

キーワード：三河湾，島嶼，両生類，初記録.

Key words: Mikawa Bay, islands, amphibians, first record.



第1図. トノサマガエルが確認された佐久島のため池。

Fig. 1. A pond on Saku Island where *Pelophylax nigromaculatus* was observed.

アマガエルの大合唱が聞かれたが、アマガエル以外の両生類の鳴き声は確認できなかった。また、その付近の樹上にはアマガエルを狙っているものと思われるニホンマムシ *Gloydius blomhoffii* (Boie, 1826) が複数個体確認された。発見したトノサマガエル(第2図)は持ち帰り、愛知教育大学動物学標本(AUEZ4177)として収蔵した。

考 察

トノサマガエルは、関東地方から仙台平野を除く本州、四国、九州やその周辺の属島に広く分布しており、愛知県内では市街地を除くほとんどの地域に生息している(島田, 2018)。今回現認された個体は雌1個体のみであり、卵や幼生は未確認であるものの、同じ地点で同年に雄の広告音も確認されていたことを踏まえると、本種は佐久島で繁殖している可能性が高い。

今回確認された雌個体はかなり大型で、その頭胴長(97 mm)は松井・前田(2018)が示した一般的なトノ

サマガエル雌の頭胴長の範囲(63–94 mm)を超えていた。ただ、今回は1個体のみを観察であったため、佐久島集団でこうした大型の体サイズが一般的であるのか否かは不明である。

佐久島は愛知三島の中では最も山がちな地形を有し、かつて耕作地だった箇所を含め、現在ではその多くが森林に覆われている。同島ではかつては水稲耕作も行われており、大正時代から昭和初頭にかけて沢筋の低地には水田が6.8 haほど存在したが(佐久島会, 2008)、2012年に筆者らが佐久島で調査を始めた際には、それらはすべて放棄されていた。筆者らはそれ以降ほぼ毎年島を訪れているが、水田環境は見えていないため、少なくとも十数年、おそらくはもっと長期にわたって、同島には水田環境が存在しない状態が継続したと思われる。かつて佐久島で最も大きな水田地帯があった、島中央部の江名付近の低地は、現在では抽水植物等が茂り、そのかなりの部分が陸化しているが、一部は湿地状になってガマ類が繁茂した範囲も残存している。筆者らはこの江名の水田跡地で2012年以降ほ



第2図. 佐久島で確認されたトノサマガエルの雌.

Fig. 2. A female *Pelophylax nigromaculatus* from Saku Island, Aichi Prefecture, central Japan.

は毎年両生類の調査をしており、ヒガシニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアカガエルの3種の両生類については現在でも盛んに繁殖をしていることを確認している。その一方で、今回の観察事例1, 2を得た日を含め、江名ではこれまでにトノサマガエルを確認できていない。仮にトノサマガエルが佐久島の在来種であったとすれば、かつて水田耕作が行われていた頃の江名の水田地帯にも生息していたことが推測されるが、同地が水田放棄に伴って抽水植物が密に繁茂し、開放水域を覆いつくした結果、我々が調査を開始した2012年には既にトノサマガエルの生息には適さない湿地に変化していたのかもしれない。一方で今回見つかった集団が、人為的な移入に起因するものである可能性は否定できず、いずれにしても同島のトノサマガエルの今後の動向に興味を持たれる。

松井正文・前田憲男, 2018. 日本産カエル大鑑. 文一総合出版, 東京, 272 p.

佐久島会, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物. 佐久島会事務局, 刈谷, 298 p.

島田知彦, 2018. 両生類編. 愛知県環境部自然環境課(編), グリーンデータブックあいち2018, 愛知県環境部自然環境課, 名古屋, p. B-1-B-10.

島田知彦, 2025. 第5節 両生・爬虫類. 新編 西尾市史編さん委員会(編), 新編 西尾市史別編2 自然1. 愛知県環境部自然環境課, 西尾市, 454-476.

引用文献

『愛知県史民俗調査報告書2』編集委員会, 1999. 佐久島の民俗の背景. 「愛知県史民俗調査報告書2 西尾・佐久島」編集委員会・愛知県史編さん専門委員会民俗部会(編), 愛知県史民俗調査報告書2 西尾・佐久島. 愛知県総務部県史編さん室, 名古屋, 169.